

## 研修報告書 No.11

研修先： 大月町国民健康保険 大月病院

私は、2021年2月8日から3月3日までの間、大月町国民健康保険大月病院でお世話になりました。高知県幡多郡大月町は高知県南西部の宿毛市南部に位置する、人口4329人(2021年2月1日時点推定)の町です。太平洋に面するリアス海岸の町であり、漁業が盛んに行われています。また観光名所としては、西南端に位置する柏島周辺が、海水の透明度が高く年間を通してダイビングスポットとして知られています。

大月病院は町内の地域医療を担っている25床の病院で、常勤医師3名が在籍しています。周辺環境としては車で5分の位置にコンビニエンスストア(ローソン)、スーパーマーケット、郵便局、道の駅があり、道の駅で新鮮なブリやハマチを調達できます。貸与されていた医師住宅は電子レンジ・炊飯器など自炊用の器具が揃っており、職員用の自動車も使わせていただいた為、移動手段に困る事なく生活する事ができました。

研修中は午前中に採血や縫合など手技のお手伝いをさせていただき、午後は町内のグループホームや特別養護老人ホーム、患者さんの自宅への往診へ同行させていただきました。また、町内の救命救急士のシミュレーション訓練にも参加する事ができました。大月病院には高知県内の研修病院からも年間を通して1ヶ月に1人のペースで研修医が研修しており、先輩研修医の方々の作成した資料も参考に研修を進めました。

研修中に印象に残ったのは、医師一人一人が行う事の幅の広さです。健診で消化管内視鏡を使いこなしたり、外来業務の中で縫合や関節内注射など手技も並行してこなしていくのは大変だと感じました。地域によっては夜間帯にはレントゲンも1人で調整したり血液検査の試薬を1人で調整する事もあるとお話を聞き、実務的な内容を積極的に吸収していくことの大切さを感じました。救急搬送では、患者の容態によってはバイタルが安定している場合は搬送後そのままCTを撮像し、近くの3次救急病院への搬送の必要性を確認するというのが新鮮でした。自身の属する研修病院での救急医療と比べ、救急救命士によるトリアージ体制がより重視されている印象を受けました。救急救命士と医療従事者との距離も近く、地域内での業種間の連携の強さを感じました。また公共交通機関が少なく(バスが1時間に1本程度)、車で移動できない高齢者による救急車の利用が多い事も特徴の一つでした。

往診では、老人ホームや特別養護老人ホーム(特老)への回診を経験しました。特老では高齢で症状を上手く伝えられない方も多く、普段診てくださっている常勤の看護師さんからの情報収集を積極的に行う事がとても大切に感じました。疾患としては便通異常や排尿異常、皮膚潰瘍形成、腰痛など泌尿器科・皮膚科・整形外科のプロBLEMが多かった為、特にこれらの領域について知識を深める事が必要だと実感しました。また健診としては、行政指導による腰痛健康診断の診療を経験させていただきました。腰痛健康診断は重量物取り扱

い作業や介護作業等腰部に負担のかかる作業に従事する労働者に対して実施されており、運動時(前屈・背屈など)の自覚症状や、腱反射などの他覚所見を確認します。腰椎ヘルニアといった頻度の高い疾患の症候を確認する他、業務に即した予防指導を行い労働環境を整えていく事の大切さを再確認しました。

お世話になった3名の医師は自治医大出身で、大月病院だけではなく、これまでに診療した病院・診療所でのエピソードを多く聞く事ができました。3次病院までの距離や人数に対する医師の比率、救急隊との連携などの医療体制は自治体毎に幅が広い為、自身が地域医療を経験する際には、それぞれの場所で自分が求められている業務を的確に判断し診療を行う事が大切であると感じました。

最後になりますが、お世話になった医師・看護師・検査技師さんやスタッフの方々、本当にありがとうございました。